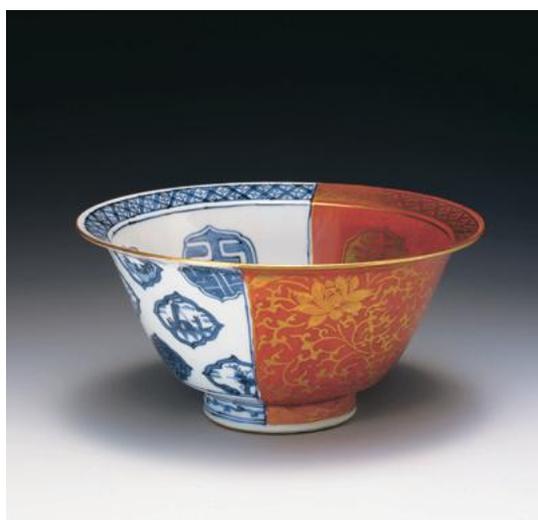


空間との対話 戦後の立体造形【近現代彫刻】

古に倣う 写しの魅力【近現代工芸】



島屋純晴《UNITY-8 大地から空間へ》
—「空間との対話」より—



永楽和全《梁付金欄手片身替鉢》
—「古に倣う」より—

- 特別陳列 天神画像と「文」の取り合わせ【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 古九谷・再興九谷名品選【古美術】
- 婚礼調度と遊戯具【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 加賀文化の粹 I 茶の湯・絵画・工芸【古美術】

- 2月～3月の企画展示室
- 友の会会員募集
- 3月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

空間との対話 戦後の立体造形

2月15日(土)~3月19日(木) 会期中無休

学芸員の眼

本展では、金属を素材とした作品を中心としていますが、木を使った造形作品も多く展示しています。梶本良衛《今のワ・タ・シ》は、発表時は床置き作品でしたが、作者の意向により、空中で展示できるように、底部を刳抜き軽量化し、ワイヤーフック用の環を取り付けました。普段は壁に掛けて展示していますが、今回は作品発表時のとおり、床置きで紹介しています。本作は杉材を継ぎ合わせて、作品を大型化しました。また、胴部には粗く鑿跡を残すと同時に、まるで空間が捻れたかのような腹部の断裂があり、平坦になりがちな作品に不思議な躍動感を与えています。木と作家が対話し制作した作品と、展示室という空間で対話してみてください。



梶本良衛《今のワ・タ・シ》

「空間との対話 戦後の立体造形」は、旧来の工芸や彫刻といったジャンルにとらわれず、特定の空間や場所、設置方法にこだわらない自由な制作をおこなっている造形作家を紹介しています。また、様々な理念に基づき、造形という方法を用いた表現を可能としていて、そのために従来の木、石、ブロンズだけでなく、鉄、ステンレス、アルミニウム、セメント、プラスチックなど多種多様な材料や技法を用いています。その作品は、屋内外問わず、様々な空間で作品と対峙した人々に心の喜びや安らぎ、あるいは感動、衝撃、興奮など多彩な刺激をもたらしてくれます。それと同時に、その空間に存在する作品にはどのような意味を与えられたのか、という問いかけも聞こえて

くるようです。末政哲夫《天窓の上の獅子座》は、窓を想定して組み合わされたステンレスの大きな四角い枠の内部と上部に、同じくステンレスで造った小型の立方体を繋げています。小さな立方体は窓枠から見える獅子座を意図しています。鏡のように磨かれた窓枠部分には、星座の造形と風景が映り込み、見る角度・場所により作品の雰囲気が変わり、作品からうける印象や問いかけも違ってくることでしょう。その他、久々に展示する加賀谷武の「空間生体」シリーズなどをお楽しみください。様々な角度から作品との対話を楽しんでいただけたら幸いです。



末政哲夫《天窓の上の獅子座》

古に倣う 写しの魅力

2月15日(土)～3月19日(木) 会期中無休

学芸員の眼

今回並べて展示する渥美新一郎《友禪茶鼠地雉流水草花文訪問着「野分」》と羽田登喜男《友禪白地雉流水草花文振袖「萌え」》は、いずれも江戸時代中期に作られた《黄絹縮地春秋草花に雉子文様友禪染小袖》(丸紅株式会社蔵)を写しています。前者が、本歌の持つ温雅な雰囲気を保ちつつ、草花の描写と配置を自然にしていきいきとした印象を加えているのに対し、後者は、本歌を大胆にデフォルメし華麗で鮮やかな色彩世界に変貌させています。同じ本歌を持ちながら、これほどまでに異なる両作品。作家による本歌の解釈と創造には、無限の可能性が広がっているのかと驚かされます。



上：渥美新一郎《友禪茶鼠地雉流水草花文訪問着「野分」》
下：羽田登喜男《友禪白地雉流水草花文振袖「萌え」》

本展示では、過去に作られたものに敬意を表し、その表現や精神に倣った制作する、写しの作品を多く紹介しています。表紙の永楽和全《染付金襴手片身替鉢》は、中国の景德鎮窯で明代に作られた染付と金襴手を本歌とし、それらを片身替りで組み合わせるといふ鮮やかな翻案をみせています。永楽和全(文政六年～明治二十九年)は京都の陶工ですが、慶応元年に加賀大聖寺藩主の招聘をうけ一族と共に山代に来て、京都に帰るまでの六年間、九谷焼の向上に貢献しました。前号で画像を紹介した《色絵金彩双龍文万曆赤絵写合子》は高台内に「於九谷永楽造」銘があり、この加賀滞在時に制作されたものであることがわかります。

また、初代須田菁華《祥瑞写胸締水指》は、景德鎮窯で明代の崇禎年間に焼かれた《祥瑞松竹梅花鳥文胸締水指》(三井記念美術館蔵、北三井家伝来)を写したものです。菁華作品は口縁と胸締部分に鉄釉を施している点と、書かれている詩文が一部異なる点のみが本歌と違いますが、その他は精巧に写されています。初代須田菁華(文久二年～昭和二年)は金沢生まれで、明治十三年、石川県勸業試験場陶画部を卒業し、京都に出て製陶を研究、十六年に九谷陶器会社に入社しました。三十九年には菁華窯を築き、染付・祥瑞・安南・伊賀・万曆・古赤絵・古九谷などの做古品に妙技を振るいました。北大路魯山人に陶芸の手ほどきをしたことでも知られています。



初代須田菁華《祥瑞写胸締水指》

古九谷・再興九谷名品選

2月15日(土)～3月19日(木) 会期中無休

古九谷と再興九谷を同時に展示すると、最初に感じるのは量産への志向の「温度差」です。最初期の古九谷の平鉢に着目すると、同一意匠の作品は伝存していないようです。もちろん類似の意匠はありますが、そこには年代的な隔たりがあるようです。その一方で、饗応目的で意識的に意匠を揃えた中皿類があります。これは当然、九谷における色絵磁器の生産が軌道に乗った以降の制作と考えられます。その年代をいつ頃と考えるかは、消費地における発掘成果を精査して考える必要があります。

このように、古九谷・再興九谷の歴史的展開には、量産化と生産の安定、そして継続的な需要の喚起などの課題が複雑に絡み合っていたようです。そして、忘れてはならないのは美への眼差しです。単なる工

業製品ではなく、そこに伝統と革新を融合した美を表現することが、古九谷を継承した再興九谷の矜持でした。そして、この熱い精神は今日もしっかりと息づいています。

今回の展示では、陶工の粟生屋源右衛門（一七八九～一八五八）に注目したいと思います。

源右衛門は、京焼を学び「東郊」と号して小松で茶陶などを制作した源兵衛の子で小松に生まれました。源右衛門は若杉窯の本多貞吉のもとで学び、若杉窯では主工を務めました。そして一八二四年には、本多貞吉の養子・清兵衛らと共に吉田屋窯を開窯し、そこでも主工を務めています。その上に蓮代寺窯、小野窯、松山窯などでも指導に当たるなど、再興九谷諸窯の発展に尽くしました。



《色絵山水図卓》粟生屋源右衛門

天神画像と「文」の取り合わせ

2月15日(土)～3月19日(木) 会期中無休

今号では、「文」の取り合わせをご紹介します。例年、学問・文芸の神、天神にちなみ、天神画像とともに文房具を展示しています。硯、筆、紙、墨は中国の宋代以降「文房四宝」と呼ばれ、文人の間で最も重要な道具として珍重されてきました。さらに室町時代の書院飾りにより、日本においても文房具は茶道具とともに重視されるようになりました。今回展示する文房具の多くは、小堀遠州や前田利常の収集品と考えられます。

そして今回は前田家において「唐墨」と呼ばれてきた墨を、九年ぶりに展示します。「唐墨」は、各五段重ねで乾・坤の二箱に墨の形に応じて刳形を設け、合計

五十五挺が収納されています。注目されるのは、その大きさ、形状と装飾です。前田家のコレクションは縦が十センチを超えるものや、円形や八角形のものもあります。そして、精巧に彫刻した木型を用いたと考えられる装飾も見事です。もちろん実際に使用した痕跡があるものが大半ですが、前田家が江戸時代のいつの時点でこれらの墨を収集したかは不明です。

最後に、明治時代の作品になりますが《源氏五十四帖画卷》にもふれておきます。本作は『源氏物語』のストーリーを、人物を描くことなくゆかりの物品によって表現する「留守模様」の手法で描かれています。

前田育徳会《墨》第九重

第2展示室【古美術】

加賀文化の粹 I

茶の湯・絵画・工芸

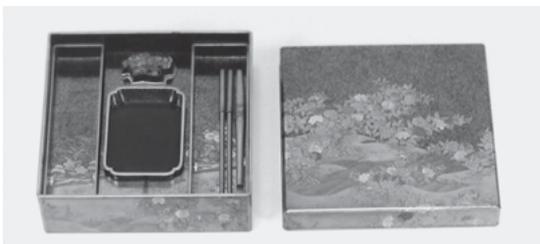
3月24日(火)～4月13日(月) 会期中無休

例年、「現代美術展」の会期中はコレクション展示が古美術部門のみとなります。そこで本年度は、全国そして海外からのお客様に、加賀文化のエッセンス(粹)を効率よく理解していただけるような構成を考えてみました。加賀文化のイメージとしては、藩政時代に培われた茶の湯や加賀蒔絵、加賀友禅といった伝統工芸、そして近代数寄者の審美眼などを挙げる事ができると思います。

そしてこれらは、「百万石ブランド」の重要な側面ともなっています。加賀藩主・前田家の文化政策によって開花した伝統工芸や、藩主が収集した文化財のみならず、加賀の文化風土の中で事業を展開した実業家の中にも、高い審美眼をもって歴史的な名品を収集した方々がいました。このような名品の集積

は、「百万石ブランド」の文化的求心力によるものであり、収集された時代を超えた大きな関連性を感じます。

今回は、このように様々な背景を持った作品を「加賀文化の粹」として展示します。そして作品を選ぶにあたっては、加賀蒔絵の《春秋花卉図硯箱》や、加賀象嵌の《銀象嵌花筏文鏡》、新春の企画展にも展示した《日月四季図》、そして尾形乾山作の《色絵雲錦手杯台》など、桜の季節も多少意識しました。加賀の地で制作された作品、また百万石への憧れや伝統を継承するという自負をもって収集された作品が織りなすハーモニーを、「加賀文化の粹」としてご堪能いただきたいと思えます。



《時絵春秋花卉図硯箱》五十嵐派

前田育徳会尊經閣文庫分館

婚礼調度と遊戯具

3月24日(火)～4月13日(月) 会期中無休

令和二年度の前田育徳会尊經閣文庫分館は、武と文の側面から改めて加賀藩主・前田家の文化政策の特質や魅力を発信したいと思えます。次回から「前田家の甲冑・陣羽織」の特集となることから、最初の特集は藩主の夫人にスポットを当て、溶姫の婚礼調度と、遊戯具として香道具を展示します。

一八二七年に、十一代将軍徳川家斉の息女溶姫が、加賀藩十三代藩主・前田斉泰のもとに輿入れしました。ちなみに、その際に江戸の同家上屋敷の南に造営された門が現在の東京大学赤門です。婚礼調度とは、婚礼の際に女性が嫁ぎ先へ持参する家紋と統一された意匠を施した、豪華な蒔絵装飾の嫁入道具です。その内容品は、三棚、貝桶、化粧道具、文房具、遊戯具、武器、飲食器、楽器など、膨大な数にのぼります。今回

は、溶姫の婚礼調度として前田育徳会に所蔵されているもののなかから、厨子棚をはじめ料紙箱、硯箱、歯黒箱、櫛箱などを展示します。いずれも黒漆塗で金蒔絵により葵紋を散らした若松唐草があしらわれているのが特徴です。

香は仏教とともに奈良時代に日本に伝わり、室町時代には茶の湯の興隆とあいまって、香道という日本独特の香りの文化が確立されていきます。江戸時代に入ると組香を基礎として、香席で聞く香は、いくつかの種類が主となります。和歌、物語、漢詩、故事来歴などに取材し、ゲーム的要素が顕著となり、今回展示する四種盤や桑十組盤などからその様相の一端を知ることができます。

香は仏教とともに奈良時代に日本に伝わり、室町時代には茶の湯の興隆とあいまって、香道という日本独特の香りの文化が確立されていきます。江戸時代に入ると組香を基礎として、香席で聞く香は、いくつかの種類が主となります。和歌、物語、漢詩、故事来歴などに取材し、ゲーム的要素が顕著となり、今回展示する四種盤や桑十組盤などからその様相の一端を知ることができます。

《眉作箱》(葵文時絵調度品 溶姫所用のうち)

2月からの展覧会

第9展示室

金沢発信
アウトサイダーアートvol.12

3月6日(金)～11日(水) 会期中無休

第九展示室

金沢辰巳丘高等学校 第三十二回卒業制作展
二月二十八日(金)～三月二日(月)会期中無休
◇入場無料

第八展示室

第四回 風の会
二月二十八日(金)～三月三日(火)会期中無休
◇入場無料

第七展示室

第四十三回 伝統九谷焼工芸展
二月二十八日(金)～三月八日(日)会期中無休
◇観覧料／一般…三五〇円 大学生…二八〇円
高校生以下無料

知的障害のある方、精神に障害のある方の中に優れた芸術力を持つ人が存在します。

金沢アート工房は才能を持つ作家を発掘し、自由に落ち着いた環境の中で創作活動に打ち込めるサポートや発表の機会を作り、作品を介して社会との接点を導き出しアーティストとして自立する事を目的に二〇〇七年に金沢市の委託事業として活動を始めました。

今回で十二回目を迎える作品展は金沢アート工房所属アーティスト十四名とゲストアーティスト一名の作品を展示します。彼らの何物にも影響されず心の中から沸き上がるオリジナルの感性と才能に溢れた作品群をぜひご覧下さい。

◇入場無料
◇連絡先／金沢市神宮寺三ー七ー十七

金沢アート工房代表 国枝千晶
電話：〇七六一二五一ー一一五五

青柳会は、書における古典研究と創作を目的に微力ながら研鑽を積んでまいりました。

この度青柳会として第四回目となる今回の会員展には、日頃勉強している古典を基本として漢字、調和体を自由な感性で展示させていただきます。

「書は書いてなんぼや」とは、わが玄心会創立者である故・劉蒼居先生の口癖でありましたが、今回の会員展の作品に、日頃の研鑽の成果が表れていますかどうか、ご覧いただければ誠に幸甚です。(なお、今回は小作品展となります。)

◇入場無料
◇連絡先／青柳会理事長 中川青玲
小松市島町ル十八

電話：〇七六一ー四四ー四二六五

玄土社の二〇一九年中の歩みをまとめた創作(抽象)四十六点、古典臨摹(写し)十六点をお目にかけます。

創作は自由にチャレンジ精神をもって、臨摹は古典に忠実に。この玄土社の基本姿勢はかわることなく今展で四十七回となります。表意文字である漢字、その古典の模写復元を試みることで本当の歴史が見えてきます。また一方では揺れ動き進化する抽象表現の愉しさ。どちらも私たちにとって欠くことのできないワークです。独自の活動をする在野のグループ玄土社ならではの古典と新しい表現の世界をご覧いただける好機会です。

◇入場無料
◇連絡先／玄土社本部(表)金沢市本多町一七ー十五

電話：〇七六一二六三一三七三〇

第8展示室

第4回
青柳会書展小作品展

3月6日(金)～8日(日) 会期中無休
※最終日は17時閉室

第8・9展示室

'19玄土社書展

3月14日(土)～16日(月) 会期中無休

石川県立美術館友の会 会員募集

3月1日(日)から受付開始！郵送でのお申し込みは郵便振替で。
現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

1. 会費 二、〇〇〇円
2. 受付期間 三月一日(日)より開始。
3. 入会手続 次のA、Bいずれかの方法。
- A 直接来館してのお申込み
- B 会員証…その場で発行。

場 所…一階情報・図書コーナー及び事務室
申込方法…会費(現金)と入会申込書に所定事項を記入して提出。

- 受付時間…午前九時三十分～午後五時三十分
- ※展示替えによる休館日は受付できません。
- B 郵便局からのお申込み

会員証…三月末から美術館日よりと共に郵送。
申込方法…同封の払込取扱表に所定事項を記入し、最寄りの郵便局(ゆうちょ銀行)窓口にて支払い。払込手数料は申込者負担。

注意事項…同封の申込書を郵送する必要はありません。払込取扱票の受領証は、会員証が送付されるまで大切に保管してください。

◆郵便局(ゆうちょ銀行)備え付けの振替用紙をご使用の場合、口座番号・加入者・通信欄に左の事項を記入して支払い。
郵便振替口座…〇〇七〇〇一七―四六四九〇

加入者名…石川県立美術館友の会
通信欄記入事項…年齢、性別、会員の区別(継続・新規・元)、職業、継続会員の方は現在の会員番号

4. その他

- ◆会員証の有効期限…令和二年四月一日～令和三年三月三十一日
- ◆会員証の対象…記名者本人のみ(ご家族との連名受付はありません)。
- ◆一度納入された会費の返金はできません。
- ◆会員証紛失による再発行はできません。

会員の特典

- コレクション展に無料で入場可(要会員証・会員本人のみ)
- 企画展入場券進呈(当館自主企画展のいずれか二回に無料で入場可)
- 企画展の開会式(開会式がない場合は初日)にご招待
- 入館料の割引(要会員証)
- ①同伴者二名まで…コレクション展、企画展観覧料が割引
- ②会員本人のみ…石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢二十一世紀美術館、脇田美術館の各館主催展覧会を割引。
- 館主催諸行事への参加
- 館内カフェ「ルミューゼドゥアッシュ KANAZAWA」にてドリンクの割引(要会員証、平日のみ)
- 最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより(本誌)』を毎月郵送

3月の行事予定

■展示室でスケッチGO!	10時～11時30分	コレクション展示室
7日(土)	展示室でお気に入りの作品を、磁気式ボードを使ってスケッチ! ※参加者は観覧料を団体料金に割引	
■土曜講座	13時30分～15時	美術館講義室 無料
7日(土)	「仏像を語る」	副館長 谷口 出
■第6回修復工房セミナー	13時30分～15時	美術館ホール 無料
28日(土)	「越中・加賀・越前の手漉和紙―その現状と課題―」 講師…宮本友信氏(東中江和紙加工生産組合代表・富山県伝統工芸士) 齊藤 博氏(石川県伝統工芸士(二俣和紙)) 石川満夫氏(元福井県和紙工業協同組合理事長) 中越一成氏(石川県文化財保存修復協会代表)	

《青手葡萄図平鉢》古九谷

口径43.0×底径22.1×高10.2cm 江戸時代17世紀



本作は、二段鉢の見込みに撫子を意匠化した地文を黄で埋めて蔓、葉の輪郭、実の一部を巧みに白抜きした葡萄をあしらひ、葉の内側を緑で埋め、他の実を緑と黄で描いています。また、見込みの周りと周縁部には菱形木目状の水文をやや小振りに描き緑で埋めています。本作の地文と同様の意匠による色絵陶磁片が、天和二年（一六八二）の火災で罹災した江戸の大聖寺藩邸跡（東京大学本郷構内遺跡）から出土していることから、本作の制作年代もそれ以前と考えられます。そこで径の大きさと、口縁には口紅を引いていることなどを判断すると、古九谷の中でも比較の後期の一六五〇年代後半以降に制作されたものと考えられます。

本作の、撫子と葡萄の取り合わせにも興味をそそられます。撫子は、すでに『万葉集』において愛しい女性の面影を重ねて詠まれており、秋の七草にも数えられています。一方の葡萄は、ワインの原料であることから、豊穣や生命の永遠性のシンボルとして、紀元前からヨーロッパやアジアで意匠化されています。中国・唐時代の《海獣葡萄鏡》が正倉院宝物となっており、日本でも珍重されたことがわかります。

こうした葡萄の象徴性は、キリスト教にも取り入れられています。したがって、桃山時代から江戸時代の日本の美術においては、葡萄が重層的な意味をもって表現されていた時期があったようです。そしてキリスト教美術においては、撫子は聖母や聖母子と結びついて描かれていたことを思い起こすと、撫子も同じ時期に重層的な意味を持った可能性は否定できないでしょう。

次回の展覧会

令和2年4月19日(日)
～5月17日(日)
会期中無休

	前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
	前田家の 甲冑・陣羽織 I	加賀文化の粹Ⅱ
第3展示室	第5展示室	企画展示室
春の優品選	春の優品選	かお・すがた・こころ —いしかわゆかりの肖像—

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

3月2日は第1月曜日より

コレクション展示室無料の日

3月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

3月の休館日は

20日(金・祝)～23日(月)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより

第437号(毎月発行)

2020年3月1日発行

〒920-0963

金沢市出羽町2番1号

Tel:076(231)7580

Fax:076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。